

未来を創り、時代を生き抜く
子どもたちを育む
新しい学校づくり

義務教育学校

川内村立川内小中学園 教育基本計画



川内村教育委員会

平成31年3月策定

はじめに

本村は、少子化による児童生徒の減少が続く最中、平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災と原子力災害によって全村避難という有史以来の非常事態に陥りました。翌年4月に帰村を果たしたものの、本村での就学者数は震災前の半数という状況にあり、極端な少人数教育環境下におかれています。そのような中で、「多様な意見に接する機会が少ない」、「交友関係の固定化」、「コミュニケーション能力が高まりにくい」、「多人数部活動の制限」等、教育における課題が懸念されています。

一方で我が国を取り巻く環境はグローバル化の進展、情報技術の革新、極端な少子高齢化、社会育成機能の低下等により、学校現場の課題が多様化・複雑化しています。このような状況の中で2020年度から小学校、2021年度から中学校の新学習指導要領の完全実施が予定されています。

本村でも、これらの状況に対応すべく、これからの教育のあり方を検討してきました。教育の魅力化を図り、より効果的な教育を実現するためには、義務教育の9年間における連続した系統だった教育の実現及びその前段階である保育施設との連携、そして学校・家庭・地域が一体となった地域に間かれた学校等、総合的な教育体制作りが喫緊の課題となっています。

これらの課題に取り組むべく、認定こども園と連携しながらの小中一貫教育体制の整備、コミュニティ・スクールを導入することにより、本村が目標と掲げる「復興に関わり世界で活躍できるたくましく心しなやかな人材」の育成に一体となって取り組んでいきます。

川内村がめざ

復興に関わり 世
たくましく 心しな

自己実現

「かえ
を持つ

ひろがる

思いやり

故郷を愛する心

ふか

川内村の木「モミ」

地域と共に歩む学校(コミュニ

新しい教育

世界で活躍できる
やさしい人材の育成

「**育力**」
子ども

表現する力

たくましさ

つながる

まる

義務教育学校・認定こども園

ニティ・スクール／地域学校協働本部)

1

川内村の新しい学校づくりの理念

1

豊かに学ぶ学校

- 9年間の義務教育期間を通じ、主体的に学ぶ力、協力しながら課題を解決する態度を育てる
- 少人数教育を生かして、誰もが主役となれるよう一人一人の個性を伸ばす
- 情報化・グローバル化等、社会の大きな変化の中で生き抜く力を高める
- 復興に関わり、地域社会で活躍できる資質・能力を伸ばす

2

健やかに育つ学校

- 協働による学習や活動、異年齢交流を通して自己肯定感を高める
- 思い切り体を動かし、健やかでたくましい心と体を育む
- 川内村の歴史、伝統・文化を継承し、自然の魅力を全身で感じ、村に誇りを持たせる

3

地域と共に歩むコミュニティ・スクール

- 義務教育学校・認定こども園・放課後子ども教室・児童クラブ興学塾を通して子どもたちの育ちを村民みんなで支える
- 子育て、生涯学習、コミュニティ活動の場となり、村民を迎え入れる
- 災害発生時には、避難場所、防災拠点となり村の安全・安心を支える

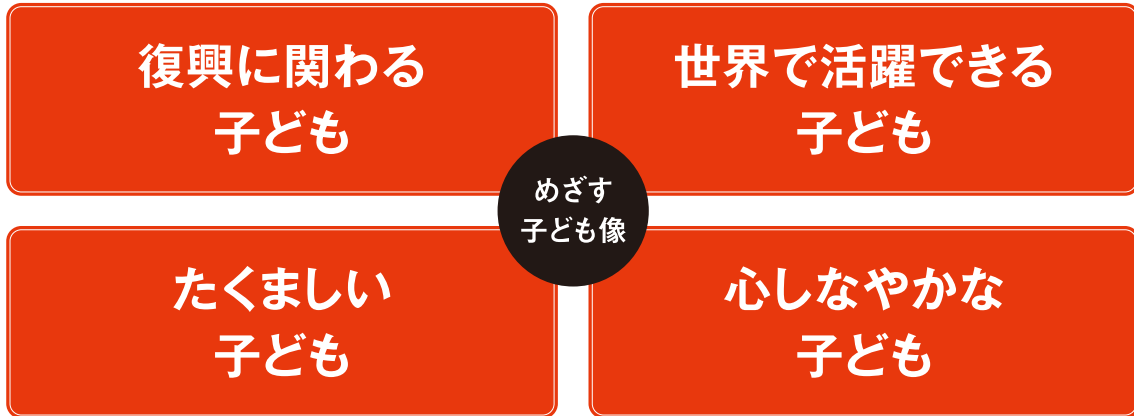
4

かわうちの復興の核となる学校

- 避難場所や帰村時期の違いを持つ村民が1つにまとまれる場、新たな村づくりの核となる
- 「学校縁で実現するコミュニティの核」を目指し、子どもを通じて村民同士、村民と外部の人々が出会い、交流を深め、また村民の帰村や移住を促す力となる

2

川内村の教育がめざす子ども像



3

川内村の教育が育みたい資質・能力等

子どもたちが故郷の復興や社会が大きく変化する時代を生き抜いていくためには、従来の知識や方法だけではなく、加えて新たな価値を生み出す力等を身に付けさせることが、何よりも重要であります。

私たちは、そのような子どもたちに必要な力を『**かえる力**』と名付けるとともに、そのような力を身につけた子どもたちを

『**かえる力を持つ子ども**』と位置づけます。

この子どもに必要である『かえる力』を育むためには、誇りや感謝の思いを育み復興への活力となる「故郷を愛する心」、学びの最終局面である「表現する力」、人間関係や学習環境の基となる「思いやり」、あらゆる活動の基盤となる「たくましさ」の4つの資質や能力を重点的に伸ばさせていくことが重要です。さらに本村の認定こども園との関わりを強め、村や地域を挙げて育成に取り組むことで、着実に身につけていきます。

『かえる力を持つ子ども』に必要な力

変える力

これまでのよさに磨きをかけながら、
現状に疑問を持ち新たな価値(もの、こと、考え、関係等)を
創り出す力

+

振り廻る力

自分の学習や生活の状況をしっかりと把握し、
それをもとに見通しを持って、
次の問題発見や解決につなげていくことができる力

+

立ち帰る力

故郷を理解し、誇りや愛情を持ち、
より良い社会の形成に進んで貢献しよう努める等、
自分の帰属する集団や社会に常に立ち帰ることができる力

+

カエル力

カエル
蛙は常に前方に跳躍し、後戻りすることはない
同様にどんな困難な状況であってもしなやかに、たくましく
そして自ら粘り強く、前へと進んで行こうとする力

※カエルは川内村のシンボリックな生物



「かえる力」

4つの『かえる力』の総称

本校がめざす『かえる力を持つ子ども』の育成は連携校でもある、
ふたば未来学園高校の建学の精神である『変革者たれ』にも引き継がれる

4つの資質や能力

① 故郷を愛する心 → 自分が生まれ育った故郷、川内村に対する愛情・愛着の思い

故郷への学びを通じ、誇りや感謝の念を育むことにより、自ら未来を切り拓く力が育成されます。また、学びを通じ、自分の考えを持って、多様な人達と一緒に、知識や技能を活用し、課題を解決することにより主体性・協働性・創造性もあわせて伸長できます。

② 表現する力 → 言語、芸術的な表現、行動や態度を使って表現する力

理解力・思考力・判断力を基盤に据えたより大きな内容(学びの最終局面)を持った力であり、個性を磨き主体的・積極的に生きていく力そのものです。

③ 思いやり → 他の立場や周囲の状況を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ますことができる力

他や周囲を思いやることにより、状況に応じて柔軟で適切な対応(しなやかさ)をとることが可能となります。また、創造する力や表現する力を育む過程において、互いに思いやり、認め合うという雰囲気も非常に重要です。

④ たくましさ → たくましく生きるための健康・体力、気力

体力面でのたくましさは、人間のあらゆる活動にとっての基盤です。将来、社会において積極的に他者と関わり人間関係を形成しながら課題を解決したり健全な発達・成長を支え、自身の夢や志を実現したりする上でとても重要です。また、どんな状況におかれても決してあきらめず、前向きに取り組む気持ちの面でのたくましさである勇気や強さも大切なものです。

4

川内村の教育を進めるにあたって

川内村の新しい教育を効果的・効率的に進めるために、『つながる』『ふかまる』『ひろがる』を学びのキーワードとして推進します。村民と学校が一体となり、また、外部と広くつながることにより、学びを深化させ、より発展したものにしていきます。

つながる

多様な価値との出会い

- 子どもの協働による学習や活動
- 義務教育学校、認定こども園における異年齢交流
- 学校、子どもと村民、地域及び外部(村外、外国、企業等)との交流
- 村の歴史、伝統・文化に触れる
- 先哲の豊かな知見や優れた先端技術・知識との出会い

ふかまる

学習内容の本質的理解

- 自ら課題を見出し、追求、解決を行う
- 知識を相互に関連づけて理解を深める
- 精査した情報を基に自分の思いや考えを持つ
- 考えや思いを伝え合い、集団としての考えを形成する

ひろがる

学習成果の汎用化

- 問題を見出して、解決策を考える
- 思いや考えを基に新たな意味や価値を創造する
- 新たな課題や未来へ向けての興味関心を高める
- 歴史、伝統・文化の伝承

5

川内村が求める教師像

「教育は人なり」といわれるように、川内村が求めている学校教育を実現するためには子どもたちや保護者はもとより、地域から尊敬され、信頼される教師であることが望まれます。

望む4つの要素と教師像

1

教職に対する強い情熱

子どもに対する教育的愛情と
教育に対する情熱使命感を持って学び続ける教師

2

教育の専門家としての確かな力量

教えるプロとしての深い専門性や幅広い教養を持ち
実践的指導力のある教師

3

総合的な人間力

社会人として心身ともに健康で高い倫理観と自律心及び協調性を持ち
個性豊かで人間的な魅力あふれる教師

4

復興への熱い思い

郷土を愛し、復興に向かって意欲的に貢献していこうという
熱い思いを持った教師

6

地域と共に学校が歩むために

「かえる力を持つ子ども」を育む義務教育学校は、認定こども園と連携しながら、地域に学び、地域と共に歩む学校です。そこでは家庭・地域は互いに協働し合い、学校を支え、学校と共に歩いていくことが重要となります。そのためには学校と目標を共有し合い、下記のように各々がそれぞれの役割を十分に果たしていくことが望まれます。

